

農協の風新聞

「発行者」
農協組合長
「発行日」
だいたい
隔月発行

2

畑仕事に、スカッと爽快。



84プラットホーム会議

そして小さな林業が動き出す。



入れている佐川町も仲間入りし、少し大きな風が吹き始めようとしています。

馬路村農協はぼん酢やゆずの村ドリリンク、その他のデザインで梅原氏と交流がありこの風の上昇気流に乗って行こうと許可を頂き、木箱ギフトを84ギフトと名付けました。

84って何？分かっていないから面白い。高知から都会へ風を吹かし山間地を何とかしたい。そして林業を何とかしたい、そんな思いの84が10年目にしてやっと動き始めました。

多くの人も知られていないし、あまり情報も出していない。84が動き始めるかもしれない。その84プラットホーム会議について紹介しておきます。高知県の森林率が84%で日本で一番森林率の高い県を表したのが84です。山は多いし産業も少ない。不平不満を言ってもしょうがないと、84%を看板にして高知県の林業や山間地の活性化を図ろうと梅原真氏（香美市在住）が10年前に立ち上げたNPOプロジェクトです。ところが、10年間鳴かず飛ばずの状態でしたが、知事も代わり県庁も少し関心を示し始め、さらに環境省の地域循環共生圏づくり事業に10年目にして採択された事。さらに自伐型の小さな林業でふるさと応援隊を30数名受け



8月8日 84会議の様子

農協も「84セット」で取り組みを発信します。



信用事業の譲渡 代理業務により 今までどおり

当組合は令和2年9月20日をもって、信用事業を高知県信用農業協同組合（以下信連）に譲渡し、代理業務として組合員へのサービスを開始します。

平成26年から始まった農協改革の中で、金融機関の高度な内部管理体制や信用事業の要員増加で費用が増大し収支悪化の恐れがあるために、総会や座談会で説明を行い譲渡の方針を決定して準備を進めてきましたが、いよいよ9月20日から信連の元で代理業務を行うこととなりました。代理業務の営業時間は9時から3時までで1時間短くなりますが、本所のシャッターは5時まで開けますので、共済やその他の事などでお越しください。

キノコ研修会

山村でありながらキノコが少ない。シイタケは鹿や猿が食べる。マツタケは松が枯れて年々採れなくなった。山間地でありながら、馬路村はキノコの種類が少ない？いや、少ないのではなく毒キノコと食用キノコを見分けられないから食してこなかっただけ。山にはたくさん食べられるキノコがあるはず。と思つて秋に研修会を予定しています。キノコ類は特用林産で森林組合の管轄でしたが、森林組合と連携を図りながら進めます。

日時 令和2年10月13日（火）
13時15分～（13時受付開始）
会場 ゆずの森加工工場2階研修室
講師 高知県木材産業振興課
専門企画員 荒尾 正剛 氏

マイタケの自然栽培に チャレンジ

以前高知新聞に、いの町本川でのマイタケ栽培が紹介されていました。記事を読んでいくと、馬路村でも出来るのではと思ひ、キノコ研修会に参加しました。

研修会で分からなかったことは、実際に村でマイタケの栽培をして村でできるかどうか可能性を探りたいと、試験栽培をお願いしました。順調に菌床が広がれば10月頃に生えてくる予定です。



▶培養作業 ▶山へ敷設

ドレッシングの挑戦

ドレッシングが売れんなあ？80億円市場と言われるドレッシング市場だが大手数社が独占状態でなかなかつけない隙がない。会議の度のため息ばかりで打つ手がなかった。30年ほど前に出会った料理人の長野行雄さんに連絡を取り、野菜とドレッシングで飲み明かしました。

もう一度教えてとお願いし、今まで無理と諦めていたフレッシュな非加熱、要冷蔵のドレッシングを作ってみようと挑戦が始まりました。予約注文のみ、要冷蔵で少し割高だけどおいしい。第一弾、二種類の予約注文の発送が終わりました。種類は「ユズフレンチベージュ」と「ゆず風味 焼き鮎の香りを添えて」でまずは成功。次回の予約は11月です。食してみたい方はお申し込みください。2種類あり、300mlで各1,200円です。

幼木用 ウサギ&鹿ネット

ゆずの1年、2年苗の幼木を植えても、ウサギや鹿の食害にあつて成木まで生長するのに年月がかかりすぎる。そういう心配を少し解消できる金網ネット1本用（写真）を見つけました。据え付けと取り外しは簡単で、持ち運びも楽です。値段が少し高いですが、食害にあつて木の生長が遅れたり、枯れたりすることを思えば実践向きではないでしょうか。予約取りまとめを行いますので、被害の多い畑にはぜひ使ってみてください。



購買に展示します。

ゆずの集荷説明会

今年のゆずの集荷説明会は、新型コロナウイルスの心配もあり、青玉集荷・黄玉集荷ともに説明会を実施せず、代表委員会を開いた後の決定事項を文書にてお知らせいたします。

新発売です！

ゆずサイダー



今日はやきにく。

馬路村

今年の春から準備してきました焼肉のたれが発売されました。使用原料はゆずを含めかなりたくさん使っています。農協至上最大ですが、味はやや甘口のほのかなゆず風味です。しばらくの間カタログ販売と村内アンテナショップのみ販売です。

職員紹介コーナー

知らん人がおる。の声に応えて

営業販売課5年目
佐藤 彰洋
岡山県出身



普段は化粧品工場場で働いています。品質管理や化粧品の法律は難しいですが、開発で予測したことが上手くいった瞬間はとっても面白いです。馬路村は気候も良く暮らしやすいですね。家にエアコンが無いので涼しいのが助かります。趣味は、山登り、沢登り、岩登りです。最近、石鏡山北壁の岩登りに挑戦してきました。

32年目の便り

夏のある日、古い友人（記者）から新聞社退職の便りが届いた。読んでいくうちに、当時を思い出したり、歳月を感じた。掛水氏の記事がなかったら、今日の馬路村農協はなかったかもしれない。昭和63年悪戦苦闘していた時代、日本の101村展で金賞をいただいた内容が写真つきで詳しく紹介されていた。この記事は新聞社に許可をいただいて、数十万枚印刷しずいぶん活用した。「ぼん酢しょうゆゆずの村」が全国区にのし上がった後押しになった。記者は他にも、村のたくさんの方のことを記事にしており、知り合いも多いと思うので許可をいただいて内容を抜粋し紹介します。手紙の中で人生100年時代をどう考え、どう生きるかの一つの方法が示されていて、皆さんにも参考になればと思い紹介しました。

連絡が遅くなりました。今春、定年退職し、現在、RKC調理師学校へ学生として通っています。地元季刊誌のコラムニストが取り上げてくれたことと、6月号の高知新聞社報がありますので、そのコピーを同封し、近況のご挨拶とさせていただきます。

嘱託再雇用を選ぶ仲間が大半の中、退職を選んだことに対して、「店でも開くのか?」「料理が好きなのか?」とよく聞かれましたが、そういうわけではありません。「人生100年時代」と突然言われ始めた中、残る40年をどう生きていくか考えた結果です。自分が働いた年月よりも長い時間が残っており、「まだ、もうひと人生あるのか」と戸惑いました。とりあえず、健康の土台作りをしておかねばと思ったわけです。あと5年間、会社に残り、しおれてしまっただけでは第2の人生へのリセットの気力は整わないでしょう。体の動くうちに充電を、という思いです。セカンドライフへの入場券を手に入れるための作業のような気がします。

また、10年前、幡多支社へ単身赴任したこともきっかけとなっています。スーパーへ入っても、居並ぶ食材に手を出せず、惣菜コーナーに行くしかなかった哀れな食生活への反省です。

さらに、書き疲れた、という側面もあります。幸か不幸か37年間の新聞社人生の大半を書き続けてきました。2005年、編集委員となってからは毎年、大型連載に取り組み、ほとんど休むことなく考え詰める日々。その一方で、しょせんは他人の人生のドラマを聞いて書くだけ。自分は何もしていないじゃないか、と…。《中略》

新型コロナのあおりで、授業は5月の連休明けからとなりました。9時から16時まで、午前が学科、午後が和洋中の実習。3時間座りっぱなしの授業はきついし、実習も6本の包丁研ぎから始まって、魚のさばき方、たまねぎのみじん切りなど、初めてのことばかり。指をぐっさり切ること3度。「だし」や「フォンドボー」の意味もはっきり分からずストレスだらけでしたが、2ヶ月もすると何とかついていけそうになった感じがします。

年間1000時間を超す授業。「それだけやれば、料理もバリバリになるやろう」と勘違いする人がいますが、そんな甘いものではないようです。卒業してやっとスタートラインに立つレベルとか。《中略》

今後、どういふ人生を歩むことになるのかまだ、見当もつきませんが、元来、そういう人間ドラマを追いかけてきた私です。先が見えないから面白いし、壁に当たったら、それを自分がどう乗り越えるのか、ある面、楽しみなところでもあります。そんなわけで、笑わないで、これからの成り行きを見守ってやってください。では、お元気で。

馬路の『ゆずの村』(ぼん酢しょうゆ)
特産品展で日本一
西武ルートで全国販売

昭和63年5月8日付 高知新聞掲載
 平成元年6月18日付 高知新聞掲載

あちこち
 ユズで死んだ。開拓した譲長いわく、馬路村農協の初回は小売額百五十円を協に問もな考えたい。これだと細業者のマーキングも出る。高知市の会合などに試作品を持参して、意見を聞いた。「味はえいけん」と、ちつと高いわえが。お母がたの反応。買額は百二十円。路んはうごいたがい。ろるあつて漢をのんだ。その結果、流通ルートに乗せるとはならず、馬路温泉と村内の商店、それに直取引してくれる小売店しかお目にかかれそうにな

「ごっくん馬路村」
 卸業者が入らぬもので、一本百円、年産十数万本という現在の見込みで、一本の利益は数円、結論から言うと、このごっくん馬路村、その簡単さ、たけなげにすぎない。ユズに異議の手元に届きすぎに、ユズが高過ぎ、これも卸業者へのマーキングに問題が起きてしまったか

(中芸・掛水)

「ぼん酢しょうゆ ゆずの村」が3位に おいしいはダントツ1位。

2020年(令和2年)8月24日(月曜日) 日経MJ

「味ぽん」合わせ技で一本

ぼん酢しょうゆ
 テレビスCMなど評価高く(日本経済新聞社)

日経マার্ケティング ジャーナル

調査結果: 味ぽんがダントツ1位、ゆずの村が3位に名前があつた。トップはミツカンの味ぽんで19.8点、「ゆずの村」は18.6点で12点及ばないが、調査項目を見ると味・香り48点のさつぷり。バイヤー調査だから生活者の目線ではないかもしれないが、高知の田舎の小さな農協の商品が、全国の量販店の中で評価されている。「ゆずの村」は発売から34年を迎えた。

全国の皆様から農協に毎日届く手紙。

村民のみなさまにも紹介したいと思います。

梅雨明けが遅くゆず玉の品質が気になって、6回防除をやるのだが、もう少し回数を少なくできないかと、今年は4回に落とした。第二次生理落下も豊作年だから大量に落下し、少し気落ちしていた。9月に入り、きれいな青玉がたくさん目につき始め、安堵している。しかし収穫終了までは、黒点病とサビダニから気を抜けない。収穫までひと月ちょっと。

編集後記

ご注文とか、おへの嬉しいとか、もっと頑張れとか、なんでも使えるハガキです。長男と長女が、ジパールをこけておろし、馬路村農協を築きあげてくれました。長男は今年から中学で卒団の年でもありました。コロナで開催中止になりましたが、ごめんですが、とても残念なことです。来年も開催できると祈っています。製品の売れ行きもコロナの影響を受けているかと感じておりますが、協力ながら我が家が馬路村農協製品を購入し続けたいと思っています。

ご注文とか、おへの嬉しいとか、もっと頑張れとか、なんでも使えるハガキです。10年前、徳島に住んでいて、ごっくん馬路村が大好きで馬路村を訪問しました。何もかも自然な馬路村が大好きになりました。今も変わらないのかな、行ってみたい。癒されたいな。高知市内の友人から馬路村セトが送られてきました。なんと馬路村に行きたいことかありません。こんないいところない、もっとアピールしてください。近々子供と連れて行って馬路村、この時期

ご注文とか、おへの嬉しいとか、もっと頑張れとか、なんでも使えるハガキです。

以下を希望する方は○を付けてください。
 ①ゆず製品のパンフレット ()
 ②馬路村のパンフレット ()
 ③馬路村温泉のパンフレット ()